

川崎港開港 75 周年記念 「第 53 回川崎みなと祭り」開催情報第一弾！ ～帆船「日本丸」が川崎港に寄港！一般公開します～

川崎市は、毎年、川崎港への理解を深め、親近感を高めていただくため、「みんなの川崎港」をテーマに、港湾関係機関・団体が協力し、「川崎みなと祭り」を開催しています。

今年度は、本市が川崎港の港湾管理者となって 75 周年を迎えたことから、「川崎港開港 75 周年記念」と銘打ち、「第 53 回川崎みなと祭り」を、**10 月 10 日(土)、11 日(日)**に開催することが決定しました。

なお、開催期間中は川崎港開港 75 周年記念イベントとして、帆船「日本丸」が川崎港に寄港し、一般公開を行います！

この他、川崎みなと祭りの詳細なイベント内容については決まり次第、随時お知らせいたします。

川崎港開港 75 周年記念「第 53 回川崎みなと祭り」の概要

日程：令和 8（2026）年 10 月 10 日（土）、11 日（日）※雨天決行、荒天中止

場所：川崎マリエン（川崎区東扇島 38-1）周辺、東扇島東公園（川崎区東扇島 58-1）

概要：ステージやグルメ、子どもから大人まで海や港について楽しく学べるコンテンツなど、

川崎港の魅力を体感できる企画を予定しています。詳細は、今後、みなと祭り特設ページ（後日開設予定）等で随時お知らせします。

主催：川崎市、川崎商工会議所、公益社団法人川崎港振興協会

共催：川崎港運協会、一般財団法人川崎港湾福利厚生協会、東扇島協議会、川崎海事広報協会

実施：第 53 回川崎みなと祭り実行委員会

■帆船「日本丸」について

昭和 59（1984）年、日本丸は 50 余年にわたって海の若人を育ててきた初代日本丸の代替船として建造されました。全長 110.09メートル、総トン数 2,570トン、現役で活躍している帆船です。

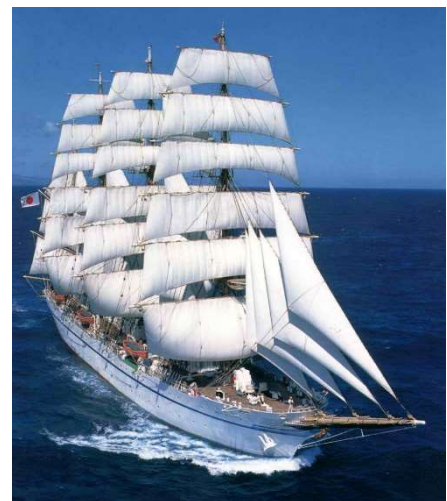
日本丸は、我が国の造船技術の粋を結集して建造された船であり、その優れた性能は、日々の航海訓練において遺憾なく発揮されています。航海訓練の途上では、国内外問わず多くの港に寄港し、各地での行事への参加を通じて、海事思想の普及と国際親善に寄与しております。

一般公開では、デッキ上を見学でき、帆船ならではの魅力を身近に感じていただけます。

※帆は畳んだ状態での公開となります。

※川崎市に帆船が寄港し一般公開するのは、平成 13（2001）年 11 月の帆船「日本丸」以来です。

写真提供：独立行政法人 海技教育機構



「川崎みなと祭り」とは・・・

川崎みなと祭りは、川崎市経済の一層の振興・発展を祈念し、川崎港の使命について市民の理解を深め、港に対する親近感を高めるために、昭和49（1974）年、川崎市市制50周年記念を契機に、川崎市と商工会議所の共同で開催したことから始まりました。当初は、川崎港を紹介するパネルを、駅前やかわさき市民祭りで展示するといった内容でした。

平成4（1992）年からは、川崎マリエン（川崎市港湾振興会館）の開館に伴い同施設に会場を移すとともに、港湾関係団体を含めた「川崎みなと祭り実行委員会」を組織し運営することになりました。（現在は、主催、共催7団体になりました。）

例年、大勢の来場者にお越しいただく川崎港で最も盛大なお祭りです。

※昨年度の様子は第52回川崎みなと祭りのホームページを御覧ください

<https://kawasakiminato.com/>



川丸くん

■川崎港の概要

川崎港は「国際戦略港湾（国際競争力の強化を重点的に図る必要がある港湾で、国内では、東京港、横浜港、川崎港、大阪港、神戸港の5港）」に指定されています。令和7（2025）年の輸出額は1兆3,201億74百万円、輸入額は2兆8,058億54百万円です。主な取扱貨物は、輸出では完成自動車など、輸入ではLNG、原油などの燃料があります。

川崎港について

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-6-1-0-0-0-0-0-0-0.html>

<p>【問合せ先】 川崎港概要及び日本丸寄港に関すること ■川崎市港湾局港湾振興部 誘致振興課 渡邊（わたなべ） 電話 044-200-3072 内線 41201</p>	<p>川崎みなと祭りに関すること ■第53回川崎みなと祭り実行委員会 事務局 公益社団法人川崎港振興協会 電話 044-287-6011</p>
---	--